

# 日本医史学雑誌 第四十四卷第四号 目次

## 原著

卷子写本から宋元版へ——中世日本における中国医書受容の様相……………小曾戸 洋……………四三

「導道・三喜別人説」の検討……………遠藤 次郎・中村 輝子……………四九

地藏寺過去帳による華岡青洲の乳癌手術患者三名の死亡年月日……………松本 明知……………四九

アメリカにおける人痘接種法——一七二二年からアメリカ独立まで——（その二）……………小田 泰子……………五〇

## 資料

南化本『史記』扁鵲伝の訓点……………宮川 浩也……………五三

『よしの冊子』医家関連記事（二）……………町 泉寿郎……………五二

手塚良斎『医学所御用留』（三）……………深瀬 泰旦……………五七

池田文書の研究（十八）……………池田文書研究会……………五三

## 記事

### 消息

第三六回国際医学史会議……………泉 彪之助……………六一

「宗田文庫披露式」報告……………真柳 誠……………五三

## 紹介

荒井保男著『続・医の名言』……………大滝 紀雄……………五四

青木歳幸著『在村蘭学の研究』……………正橋 剛二……………五六

岩下哲典著『権力者と江戸のくすり』……………遠藤 正治……………五八

琉球大学医学部附属地域医療センター編『沖繩の歴史と医療史』	壹岐 裕志	五七九
児玉善仁著『へ病気の誕生―近代医療の起源―』	泉 彪之助	五八〇
北条元一著『米沢藩医私撰』	深瀬 泰旦	五八二
医史学文献目録 平成八(一九九五)年	順天堂大学医史学研究室編	五八七
日本医史学雑誌第四十四巻総目次		五八七

〈本号の表紙絵解説〉

一江戸期の医風俗一

この絵はシーボルトが第1次来日するとき、専属絵師の川原慶賀らに描かせた約250点におよぶ博物図・道具図・風俗図のひとつ。彼の1828年の帰国には間に合わず、同僚のフィッセルがドイツに持ち帰り、のちロシアに渡り、いまペテルブルグの国立エルミタージュ美術館にある。

絵は右側3人の中央・僧形が医者、左が針医、左側2人の左が薬籠持ち、右が針箱持ちらしい。当時は「医は意なり」をもじり、「医は衣なり」と揶揄されたほど服装や往診にも格式があったが、ともに従者1人なので町医なのであろう。

—『エルミタージュ美術館所蔵日本美術品図録』国際日本文化研究センター、1993より— (真柳 誠)